

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700409
法人名	株式会社 ステージアップ
事業所名	グループホーム優瑠里
所在地	八幡浜市保内町喜木1-166-1(電話)0894-29-4122
自己評価作成日	平成 22 年 2 月 16 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・悪い所を見つけて治す医療的な介護ではなく、いい所を見つけて伸ばす保育的な介護を目指している。  
 ・ヘルプ(余計なお世話によって、相手を物言わぬ受身の人へと変え、自分の意思ややりたい事を削いでしまう可能性がある)ではなく、サポート(やる気を出してもらうための黒子的な役割、出来ないところは手伝い、出来る事を見つけて伸ばし、自分にも出来る事があると気付いてもらう)でありたい。  
 ・十人十色のサービスが出来るグループホーム。  
 ・明るい環境で、いつでも笑い声が聞こえてくる、家族、知人、地域の方がいつでも遊びに来てくれるグループホーム。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

祭等の地域の行事には積極的に参加し、地域の人との関係を継続できるように支援がなされており、運営推進会議でも様々な立場の方に参加してもらい、出された意見をよく検討しサービスの質の向上に意欲的に取り組んでいる。統一したケアが提供できるように、利用者支援のための個別の分かりやすいマニュアルを作成する等、レベルの高い取り組みがなされている。防災マニュアルの中に地域の防災マップを入れたり、独自に毎月決めた日に避難訓練を行ったりと防災に対する意識が高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム優瑠里
(ユニット名)	Aユニット
記入者(管理者)	
氏名	浅野清美
評価完了日	平成 22 年 2 月 16 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「笑顔」「心身の健康」「生きがい」を理念に掲げ、利用者の日々の暮らしを支えている。 毎月のスタッフ会議で理念について話し合い、実践に繋げている。	
			(外部評価) 開設当時からの理念を掲げている。見直しもスタッフ会議で検討されたこともあるが、現在の理念を大切にしたいという思いから変更せず職員全員で共有し、実践するよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事や小学校の行事に参加し、交流している。地区の老人会長、自治会長に運営推進委員になって頂き、ホーム行事の際には、ボランティアとして参加してもらっている。 外出時の挨拶、行事の際に声掛けし、近所付き合いを行っている。	
			(外部評価) 地元の職員が多く、老人会長や自治会長とも関わりを密にしているため地域の情報が入りやすく、地域の行事に積極的に参加をしている。ホーム主催の夏祭りには、老人会にも出店してもらったり、散歩等の時にあいさつを交わしたりと交流も多い。高校生の実習も受け入れており福祉教育にも貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 行事の際、老人会や婦人会、高校生にボランティアとして参加してもらい、入居者との交流の中で認知症の方への理解を深めて頂く様に取り組んでいる。 小、中学生の福祉体験や職場体験の受け入れを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所内での取り組みや活動を報告し、意見交換を行っている。出された意見や要望を職員間で話し合い、改善に生かしている。	
			(外部評価) 様々な立場の方に参加してもらっており、活発な意見交換ができていることが記録から読み取れる。そうめん流し等の行事を兼ねて行ったこともあり、開催にも工夫がなされている。職員にはスタッフ会議等で報告し、出された意見を実際のサービスに活かし、より良いケアができるよう取り組まれている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に行政の方にも参加してもらっている。支援困難事例や、事故報告時に再発防止策について相談している。グループホーム連絡協議会で意見交換や連絡がある。 保健センター栄養士に、定期的に献立表の確認やアドバイスをもらっている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市の職員や保健センターの職員に参加してもらい意見をもらっている。市主催の連絡会が2か月に1回あり、市の職員や他の事業所との意見交換や交流をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束等の排除のための取り組みに関する理念及び方針を施設内に掲示している。身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。 玄関は、夜間帯を除き常に解放されている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないために、スタッフ会議で話し合いを行い正しい知識を身につけている。また、身体拘束につながるような行為や言動は、職員同志が注意をし合う等の取り組みがなされている。玄関の施錠も防犯のため夜間行うだけで、日中は施錠していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に入居者の状態に注意を払い、スタッフ間で知らせ合っている。スタッフ会議の議題として、学んでおり、身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等で学ぶ機会がある。制度利用の入居者が何名かおり、おおよその制度は理解している。職員全員で更なる理解を深めるて行きたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には2名以上の職員が立ち会い、理解しやすい説明を行っている。重要事項説明書により、利用料金、職員体制、その他細かな説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。来訪時や電話連絡、運営推進会議で要望や意見を聞いている。又、家族からの要望は職員で話し合い、申し送りをし共通理解をしている。毎月、さわやか相談員の訪問がある。  (外部評価) 家族の面会が多く要望や意見を管理者や職員に直接言いやすい環境や関係が構築され、さらに管理者や職員は家族に意見等を機会を見つけて聞き取るよう努力をしている。出された意見は、スタッフ会議で検討し運営に反映するよう取り組みがなされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月、スタッフ会議を行い、経営者と職員全員が参加し、研修報告や意見交換を行っている。改善活動グループに全員が参加し、それぞれの取り組みや活動報告を行っている。</p> <p>(外部評価) スタッフ会では必ず1回は発言するという決まりがあり、管理者は職員一人ひとりの意見を大切に聞き取っている。管理者のその姿勢は職員にも伝わっており、職員全員でホームを良くしていこうとしているのが感じとれる。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 勤務3年以上の職員には、特別手当や退職金共済への加入がある他、各資格手当の支給がある。経営者がスタッフ会議にて、経営報告や各手当等の説明を行っている。又、経営者が、毎日顔を出し、職員の意見を直接聞いている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 多方面への研修の参加を実施している。職員全員にケアの技術や知識を身につける機会が確保されており、希望する研修に参加している。研修に参加した職員は、スタッフ会議にて研修内容を報告し、再学習する機会を設けている。介護福祉士試験等の資格取得の為に研修参加費用の一部助成がある。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 認知症実践者研修会への参加、市や南予グループホーム連絡協議会主催の研修会や勉強会に参加し交流を図っている。 職員相互研修に参加し、他施設に研修に出掛けたり、実習生の受け入れをしており、良い所を取り入れている。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用前の面談でご本人の思いを十分に伺い、ケアプランを作成し、ご本人の思いを生かしながら、日常生活の支援をおこなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人を含めた面談とご家族のみの面談を行い、家族の思いを受け止められる様、努力している。 無理強いすることなく家族の思いが話せる様な関係作りをしていきたい。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 順番優先としているが、早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を取っている。 他のサービス機関の紹介や、グループホーム共用デイサービスの利用を進めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援する側、される側の意識を持たず、食事の準備、レクリエーション等共に楽しみながら過ごし、人生の先輩としての知識を学ばせてもらっている。 一緒に作業したり、楽しむ事で得意分野が発揮できるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 情報の共有に努め、一緒に本人を支える役割を持って頂き、喜怒哀楽を共有できるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) センター方式への記入をご家族にお願いし、長年なじんだ習慣や好みを把握し、入所後も継続できるようにしている。馴染みの美容院や医院への外出の支援を行ったり、自宅への外出や外泊の援助をおこなっている。  (外部評価) 利用者也職員の地元出身者が多いため、共通の話題や昔話等で盛り上がるのがよくある。祭等の地域の行事には積極的に参加し、地域の人との関係を継続できるように支援している。また、同法人のデイとの交流や利用者同士の新しい馴染みも構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に活動できる作業を用意したり、個別に話を聞き、職員が仲立ちする事で関係を調整し、支援している。その日の心身の状況や気分、感情の変化に注意し、利用者同士の関係が円滑になるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設への住み替えの際には、関係者に、本人の状況、情報を細かく伝え、ご家族にも十分な支援をお願いした。転居後も面会し、他施設との連携を図った。ターミナルケアにて、亡くなられた利用者のご家族が、お墓まいりの度に立ち寄って下さる。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、利用者に声をかけて希望や思いを聞いたり、家族にも来訪時等に思いを聞いている。又、表情や行動から汲み取り把握に努めている。  (外部評価) センター方式を活用し利用者の思いや意向を把握するよう努めている。家族にも記入をお願いしたり、日々の生活の中で職員が気が付いたこと等は必ず記入するようにしている。意思表示の困難な利用者については、表情や態度から汲み取るようにしている。収集した情報については、家族にも知らせて共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人の話やご家族の話から生活歴等の把握に努めている。センター方式への記入をご家族にお願いし、これまでの生活習慣や暮らしについて把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズム、心身の状況を把握し、記録として残し把握に努めている。関わりの中での気づきをセンター方式のシートに記入したり、申し送りし情報の共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人の思いやご家族からの要望、職員の気づきを検討し、ご本人本位の介護計画が作成できるように努めている。定期的にカンファレンスや評価を行い介護計画の見直しを行っている。又、利用者の状況に変化が見られた場合には、現状に合った介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者の意向や家族の希望等を聞き取り、定期的なユニット会の中で職員全員で検討して介護計画を立てている。家族にも説明し同意をもらっている。状態が変わった場合はその都度見直しをし、計画を変更している。特に変わりがなければ3か月に1度計画の評価と見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 申し送りやショートミーティング、カンファレンス、会議等で情報を共有、記録し実践や介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 医療連携体制を生かし手、受診や体調管理を行っている。本人の要望等を配慮し、職員が馴染みの病院への受診を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員、ボランティアの方々に運営推進委員になってもらい行事の際には、協力がある。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており様々な指導をもらっている。各教育機関との協力や働きかけ、訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人及びご家族の希望するかかりつけ医を受診、職 員が受診の支援を行っている。協力医療機関からの往 診が月に2回あり、その都度相談に乗ってもらって いる。 協力医療機関がかかりつけ医でない利用者も、希望す れば診てもらえる体制がある。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関がすぐ近くにあり、定期的な往診をし てもらったり、医療的な相談も気軽に応じてもらえる関 係が構築されている。以前からのかかりつけ医にも受 診できるように支援をしている。また、歯科の往診も してもらえる体制にもなっている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 週1回看護師の定期訪問があり、健康相談や医師との連 携相談を行っている。利用者に状況の変化がある際 には、随時対応できる体制がある。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には、ご本人の支援に関する情報をご家族と相 談しながら、医療機関に提供している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取りに関する指針を定めており、ご家族の同意を得 ている。ご家族の希望があり、ホームで看る事が可能 であれば、医師及び医療機関と連携し対応している。 ホームとして2例看取りの経験がある。</p> <p>(外部評価) 管理者は利用者の身体状況に応じて家族や協力医療機関 の医師と相談をし、職員ともスタッフ会議で検討を行 い、利用者本位にケアができるよう最善の策を講じて いる。運営者や管理者は、研修会への参加の機会を設 け、職員も積極的に参加する等のレベルアップのため の取り組みもなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の普通救命講習に職員全員が参加している。緊急時対応マニュアルの確認や応急手当の確認を会議等で行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月19日に業所独自で避難訓練を実施している。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており様々な指導をしてもらっている。避難訓練時に運営推進会議を実施し、地域の方々に協力をお願いした。マニュアルや緊急時連絡網を作成している。  (外部評価) 緊急連絡網を整備しているが、実際に訓練で連絡してみたら不具合が見つかり、現在作成し直しているところである。ホームがある地域の防災マップを防災マニュアルの中に入れていたり、毎月独自に決めた日に避難訓練を行ったりと防災に対する意識は高い。	災害時に地域に住んでいる高齢者や認知症の方等の避難場所になる等のホームができる地域貢献を、職員全員で検討し地域との相互協力ができる体制を構築することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 年長者として、常に丁寧な言葉かけで対応している。人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして傷つける事の無い様配慮ある声掛けや対応を行うように努めている。  (外部評価) 職員は利用者に対し、優しく丁寧な言葉と態度で接している。また、利用者のプライバシーに関わる事については、他の利用者に悟られないように細心の注意が払われている。個人情報に管理については、きれいにファイリングされ、紛失や他人の目に触れないような注意がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でご本人に相談したり、希望を聞いている。意思表示の出来ない方も、表情や反応から思いを汲み取り、対応するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの力を把握し、その日の体調や気分に合わせて出来る事の支援を行っている。得意な事が生かせるような支援に努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの理容、美容店のある人は、職員が外出の支援を行っている。要望があれば、出張美容店の訪問をしてもらっている。毎朝、更衣洗面し身だしなみを整える支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、献立を知らせ、出来る人に声掛けし、一緒に料理してもらっている。職員も利用者と同じテーブルにつき会話しながら食事をしている。ホームの菜園で採れた野菜やご家族から頂いた野菜を料理に使っている。 季節毎の献立、行事食や誕生日の祝膳を行っている。 (外部評価) 市の保健センターの栄養士に定期的に献立を見てもらいアドバイスをもらい栄養が偏らないよう工夫をしている。テレビは食事に集中できなくなる利用者もいるので消しているが、BGMをかけたり会話を楽しみながら和やかな雰囲気の中で食事ができている。準備や後片付けもできる利用者には手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者毎の食事摂取量や水分量を記録している。利用者別食事介助時の留意事項一覧表を作成し、一人ひとりの呑み込みの状態や好み等を職員が把握している。季節毎の献立を定期的に保健センター栄養士に、確認してもらいアドバイスしてもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各居室洗面台にて口腔ケアを実施している。その人の状況に合わせた介助や見守りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>一人ひとりの習慣や排泄間隔のパターンを把握し、トイレ誘導する事で、トイレにて排泄できるような支援を行っている。日中は布のパンツとパッドで過ごされている方もおられる。改善活動として排泄班があり、それぞれの課題解決に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導しているため、日中は布パンツやパッドで対応できている。夜間はポータブルトイレを使用する等、利用者に応じて対応している。職員がモデルの写真付きマニュアルを利用者別に作成し、トイレ誘導や支援方法に職員差が出ないように徹底している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>繊維質の多い食品や乳製品を献立やおやつに取り入れている。飲水量を記録、好みの飲み物を勧めている。トイレでは、身長に合わせた足台を置く事で力みやすい姿勢で排泄してもらっている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>10:00～16:00ではあるが、利用者の希望する曜日や時間に入浴してもらっている。身長に合わせた手作り補助具により、安定した姿勢で入浴出来ている。改善活動として入浴班があり、一人ひとりの入浴マニュアルを作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>希望により毎日入ることも可能である。職員がモデルの写真付きマニュアルを利用者別に作成し、介助や入浴方法、入浴時の注意事項を詳細に分かりやすく解説しているため、利用者ほどの職員が入浴を担当しても同じケアを受けることができる。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。眠れない時は、好きな飲み物を勧めたり、ゆっくりした時間をすごして頂き休息できるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれの薬を理解、把握しており、名前、日付け等の区分を1つ1つ記入し、誤薬のないよう確認し、利用者に1回分ずつ手渡しし見守りや介助を行っている。受診時には、職員が同行し症状の変化等を詳しく医師に報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や力を生かして、畑での野菜作りや、料理、掃除等の役割を担ってもらい、気分転換や楽しみの支援を行っている。感謝の気持ちを伝える事で、やりがいを感じられている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所の公園に散歩に出掛けたり、個別に買い物に出掛けている。ホーム行事で利用者の希望する場所に外出したり、地方祭や盆踊り等、季節毎の地区の行事に地元ボランティアの協力を得て参加している。	
			(外部評価) 近くのショッピングセンターに買い物に行ったり、公園等散歩に行く等、日常的に外出できるように支援している。また、道の駅にドライブに行ったり、いちご狩り等の行事も企画している。利用者の希望や家族の意向等を確認しながらお正月に帰省したり、孫の結婚式に参加したりすることも支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出した際には、自分の財布からお金を出す機会を作り支援している。 預かり金については、金銭出納帳を記入し、ご家族に相談、報告しながら使用し、毎月収支報告書と明細を送付している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に電話が出来る声掛けや雰囲気作りの支援をしている。手紙や贈り物を頂いた際には、お礼の電話や手紙を書く援助をしている。 毎年、ご本人の写真入りの年賀状をご家族、知人に送る支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居間は全員が囲める食卓やくつろげるソファがあり、畳みのスペースにはコタツがあり、利用者は好みの場所で過ごす事ができる。台所からも見渡す事ができ、料理の音や匂いから家の生活を感じ取れる。壁面の飾りを手作りし季節感をだしている。</p> <p>(外部評価) 季節を感じさせる飾りや花等が飾り付けられたり、行事の案内等が掲示されていたりとホーム内の雰囲気が明るい。利用者の製作した作品が車いす利用者にも見やすい位置に展示される等配慮されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者同士でコタツに入ったり、ソファに座りくつろげる工夫をしている。椅子の配置を替え、台所に移動してもらったり、マッサージチェアを利用し、独りになれる空間を作っている。食事のテーブルでは花や絵を目隠しかわりとし、配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者が家庭で使用していた馴染みの家具やテレビを持ち込んでおり、配置や飾り付けもそれぞれが好みの物になっている。ご家族の写真が飾られている。カーテンは防火上、統一の防災カーテンとなっている。</p> <p>(外部評価) 今まで使用していた仏壇やたんすを自由に持ち込み、利用者の使いやすいように配置されている。テレビも持ち込み可能で居室で楽しむこともできる。壁に画鋸を刺して絵等の飾り付けも可能で、利用者の思いに合った居室で居心地よく過ごせるようになっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 椅子やテーブルは個人の体格に合わせた高さの物を使用している。浴室やトイレで補助具を使う事で、自分の力を生かせる工夫をしている。居室やトイレ浴室に大きく名札を掲げ、混乱や間違いの無いようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873700409
法人名	株式会社 ステージアップ
事業所名	グループホーム優瑠里
所在地	八幡浜市保内町喜木1-166-1
自己評価作成日	平成 22 年 2 月 16 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・悪い所を見つけて治す医療的な介護ではなく、いい所を見つけて伸ばす保育的な介護を目指している。  
 ・ヘルプ(余計なお世話によって、相手を物言わぬ受身の人へと変え、自分の意思ややりたい事を削いでしまう可能性がある)ではなく、サポート(やる気を出してもらうための黒子的な役割、出来ないところは手伝い、出来る事を見つけて伸ばし、自分にも出来る事があると気付いてもらう)でありたい。  
 ・十人十色のサービスが出来るグループホーム。  
 ・明るい環境で、いつでも笑い声が聞こえてくる、家族、知人、地域の方がいつでも遊びに来てくれるグループホーム。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

祭等の地域の行事には積極的に参加し、地域の人との関係を継続できるように支援がなされており、運営推進会議でも様々な立場の方に参加してもらい、出された意見をよく検討しサービスの質の向上に意欲的に取り組んでいる。統一したケアが提供できるように、利用者支援するための個別の分かりやすいマニュアルを作成する等、レベルの高い取り組みがなされている。防災マニュアルの中に地域の防災マップを入れたり、独自に毎月決めた日に避難訓練を行ったりと防災に対する意識が高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム優瑠里

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)  
氏名 浅野清美

評価完了日 平成 22 年 2 月 16 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「笑顔」「心身の健康」「生きがい」を理念に掲げ、利用者の日々の暮らしを支えている。 毎月のスタッフ会議で理念について話し合い、実践に繋げている。	
			(外部評価) 開設当時からの理念を掲げている。見直しもスタッフ会議で検討されたこともあるが、現在の理念を大切にしたいという思いから変更せず職員全員で共有し、実践するよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事や小学校の行事に参加し、交流している。地区の老人会長、自治会長に運営推進委員になって頂き、ホーム行事の際には、ボランティアとして参加してもらっている。 外出時の挨拶、行事の際に声掛けし、近所付き合いを行っている。	
			(外部評価) 地元の職員が多く、老人会長や自治会長とも関わりを密にしているため地域の情報が入りやすく、地域の行事に積極的に参加をしている。ホーム主催の夏祭りには、老人会にも出店してもらったり、散歩等の時にあいさつを交わしたりと交流も多い。高校生の実習も受け入れており福祉教育にも貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 行事の際、老人会や婦人会、高校生にボランティアとして参加してもらい、入居者との交流の中で認知症の方への理解を深めて頂く様に取り組んでいる。 小、中学生の福祉体験や職場体験の受け入れを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回開催しており、事業所内での取り組みや活動を報告し、意見交換を行っている。その時気付いた事や意見等を伺い、改善に生かしている。	
			(外部評価) 様々な立場の方に参加してもらっており、活発な意見交換ができていることが記録から読み取れる。そうめん流し等の行事を兼ねて行ったこともあり、開催にも工夫がなされている。職員にはスタッフ会議等で報告し、出された意見を実際のサービスに活かし、より良いケアができるよう取り組まれている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に行政の方にも参加してもらっている。グループホーム連絡協議会で意見交換を行いサービスの向上に生かしている。 保健センター栄養士に、定期的に献立表の確認やアドバイスをもらっている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市の職員や保健センターの職員に参加してもらい意見をもらっている。市主催の連絡会が2か月に1回あり、市の職員や他の事業所との意見交換や交流をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束等の排除のための取り組みに関する理念及び方針を施設内に掲示している。身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。 玄関は、夜間帯を除き常に解放されている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないために、スタッフ会議で話し合いを行い正しい知識を身につけている。また、身体拘束につながるような行為や言動は、職員同志が注意をし合う等の取り組みがなされている。玄関の施錠も防犯のため夜間行うだけで、日中は施錠していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に入居者の状態に注意を払い、スタッフ間で知らせ合っている。スタッフ会議の議題として、学んでおり、身体拘束、虐待は行わない事を全ての職員が正しく認識しており実践している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等で学ぶ機会がある。制度利用の入居者は当ユニットに該当者はいないが、おおよその制度は理解している。職員全員で更なる理解を深めるて行きたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には2名以上の職員が立ち会い、理解しやすい説明を行っている。重要事項説明書により、利用料金、職員体制、その他細かな説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置している。来訪時や電話連絡、運営推進会議で要望や意見を聞いている。又、家族が気がかりな事や意見、希望を職員に気軽に伝えたり、相談できるように、声掛け、連絡等を行っている。毎月、さわやか相談員の訪問がある。  (外部評価) 家族の面会が多く要望や意見を管理者や職員に直接言いやすい環境や関係が構築され、さらに管理者や職員は家族に意見等を機会を見つけて聞き取るよう努力をしている。出された意見は、スタッフ会議で検討し運営に反映するよう取り組みがなされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、スタッフ会議を行い、経営者と職員全員が参加し、研修報告や意見交換を行っている。改善活動グループに全員が参加し、それぞれの取り組みや活動報告を行っている。  (外部評価) スタッフ会では必ず1回は発言するという決まりがあり、管理者は職員一人ひとりの意見を大切に聞き取っている。管理者のその姿勢は職員にも伝わっており、職員全員でホームを良くしていこうとしているのが感じとれる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務3年以上の職員には、特別手当や退職金共済への加入がある他、各資格手当の支給がある。経営者がスタッフ会議にて、経営報告や各手当等の説明を行っている。又、経営者が、毎日顔を出し、職員の意見を直接聞いている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 多方面への研修の参加を実施している。職員全員にケアの技術や知識を身につける機会が確保されており、希望する研修に参加している。研修に参加した職員は、スタッフ会議にて研修内容を報告し、再学習する機会を設けている。介護福祉士試験等の資格取得の為に研修参加費用の一部助成がある。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 認知症実践者研修会への参加、市や南予グループホーム連絡協議会主催の研修会や勉強会に参加し交流を図っている。 職員相互研修に参加し、他施設に研修に出掛けたり、実習生の受け入れをしており、良い所を取り入れている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居以前に面接し、ご家族やご本人から話を伺い、不安や要望等について受け止めるようにしている。 職員全員が温かい心で支えてくれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人を含めた面談とご家族のみの面談を行い、家族の思いを受け止められる様、努力している。 無理強いすることなく家族の思いが話せる様な関係作りをしていきたい。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 順番優先としているが、早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を取っている。 他のサービス機関の紹介や、グループホーム共用デイサービスの利用を進めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として、教えてもらったり、支えてもらったりする関係を築いている。 若いスタッフに料理の作り方を教えて頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) グループホームから細かく連絡や相談があり、本人の為にいつも一緒に居てくれる。本人の表情が豊かになり、生き生きとしている。と、家族より感謝されている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) センター方式への記入をご家族にお願いし、長年なじんだ習慣や好みを把握し、入所後も継続できるようにしている。馴染みの美容院や医院への外出の支援を行っている。家族の受け入れが得られず、難しい面も多いが、職員全員で努力している。  (外部評価) 利用者も職員の地元出身者が多いため、共通の話題や昔話等で盛り上がるのがよくある。祭等の地域の行事には積極的に参加し、地域の人との関係を継続できるように支援している。また、同法人のデイとの交流や利用者同士の新しい馴染みも構築されている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が利用者同士のトラブルの原因を把握し、必要に応じて、その解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせない様になっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ターミナルケアにて、亡くなられた利用者のご家族が、今も差し入れを持ってきて下さる。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中で、利用者に声をかけて希望や思いを聞いたり、家族にも来訪時等に思いを聞いている。出来る限り希望がかなう様に努力している。	
			(外部評価) センター方式を活用し利用者の思いや意向を把握するよう努めている。家族にも記入をお願いしたり、日々の生活の中で職員が気が付いたこと等は必ず記入するようにしている。意思表示の困難な利用者については、表情や態度から汲み取るようにしている。収集した情報については、家族にも知らせて共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人の話やご家族の話から生活歴等の把握に努めている。センター方式への記入をご家族にお願いし、これまでの生活習慣や暮らしについて把握できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズム、心身の状況を把握し、記録として残し把握に努めている。関わりの中での気づきをセンター方式のシートに記入したり、申し送りし情報の共有に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人の思いやご家族からの要望、職員の気付きを検討し、ご本人本位の介護計画が作成できるように努めている。定期的にカンファレンスや評価を行い介護計画の見直しを行っている。又、利用者の状況に変化が見られた場合には、現状に合った介護計画を作成している。  (外部評価) 利用者の意向や家族の希望等を聞き取り、定期的なユニット会の中で職員全員で検討して介護計画を立てている。家族にも説明し同意をもらっている。状態が変わった場合はその都度見直しをし、計画を変更している。特に変わりがなければ3か月に1度計画の評価と見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ご本人、ご家族の意見を反映させたケアプランを作成し、3ヶ月毎に見直しを行っている。毎週土曜日にミニカンファレンスを行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 医療連携体制を生かし手、受診や体調管理を行っている。本人の要望等を配慮し、職員が馴染みの病院への受診を支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員、ボランティアの方々に運営推進委員になってもらい行事の際には、協力がある。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており様々な指導をもらっている。各教育機関との協力や働きかけ、訪問がある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) ご本人及びご家族の希望するかかりつけ医を受診、職 員が受診の支援を行っている。協力医療機関からの往 診が月に2回あり、その都度相談に乗ってもらって いる。 協力医療機関がかかりつけ医でない利用者も、希望す れば診てもらえる体制がある。</p> <p>(外部評価) 協力医療機関がすぐ近くにあり、定期的な往診をし てもらったり、医療的な相談も気軽に応じてもらえる関 係が構築されている。以前からのかかりつけ医にも受 診できるように支援をしている。また、歯科の往診も してもらえる体制にもなっている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 週1回看護師の定期訪問があり、健康相談や医師との連 携相談を行っている。利用者に状況の変化がある際 には、随時対応できる体制がある。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院時には、ご本人の支援に関する情報をご家族と相 談しながら、医療機関に提供している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 看取りに関する指針を定めており、ご家族の同意を得 ている。ご家族の希望があり、ホームで看る事が可能 であれば、医師及び医療機関と連携し対応している。 ホームとして2例看取りの経験がある。</p> <p>(外部評価) 管理者は利用者の身体状況に応じて家族や協力医療機関 の医師と相談をし、職員ともスタッフ会議で検討を行 い、利用者本位にケアができるよう最善の策を講じて いる。運営者や管理者は、研修会への参加の機会を設 け、職員も積極的に参加する等のレベルアップのため の取り組みもなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の普通救命講習に職員全員が参加している。緊急時対応マニュアルの確認や応急手当の確認を会議等で行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月19日に業所独自で避難訓練を実施している。消防署立ち合いの元、半年毎に避難訓練を行っており様々な指導をされている。避難訓練時に運営推進会議を実施し、地域の方々に協力をお願いした。マニュアルや緊急時連絡網を作成している。  (外部評価) 緊急連絡網を整備しているが、実際に訓練で連絡してみたら不具合が見つかり、現在作成し直しているところである。ホームがある地域の防災マップを防災マニュアルの中に入れていたり、毎月独自に決めた日に避難訓練を行ったりと防災に対する意識は高い。	災害時に地域に住んでいる高齢者や認知症の方等の避難場所になる等のホームができる地域貢献を、職員全員で検討し地域との相互協力ができる体制を構築することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 誇りを大切に丁寧な言葉かけをし、対応している。年長者として、常に相談的な態度、言葉遣いに配慮している。繰り返される話にもきちんと対応している。  (外部評価) 職員は利用者に対し、優しく丁寧な言葉と態度で接している。また、利用者のプライバシーに関わる事については、他の利用者に悟られないように細心の注意が払われている。個人情報に管理については、きれいにファイリングされ、紛失や他人の目に触れないような注意がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者の自己決定や希望を大切にしている。出来る限り、一人ひとりの希望や訴えをかなえられるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご本人の訴えや要望により、職員と1対1の時間をもち、なるべく要望がかなう様に努力している。入居者のペースで生活できるように、ゆっくり見守りし支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの理容、美容店のある人は、職員が外出の支援を行っている。要望があれば、出張美容店の訪問をしてもらっている。毎朝、更衣洗面し身だしなみを整える支援を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日、献立を知らせ、出来る人に声掛けし、一緒に料理してもらっている。職員も利用者と同じテーブルにつき会話しながら食事をしている。ホームの菜園で採れた野菜やご家族から頂いた野菜を料理に使っている。 季節毎の献立、行事食や誕生日の祝膳を行っている。 (外部評価) 市の保健センターの栄養士に定期的に献立を見てもらいアドバイスをもらい栄養が偏らないよう工夫をしている。テレビは食事に集中できなくなる利用者もいるので消しているが、BGMをかけたり会話を楽しみながら和やかな雰囲気の中で食事ができている。準備や後片付けもできる利用者には手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者毎の食事摂取量や水分量を記録している。利用者別食事介助時の留意事項一覧表を作成し、一人ひとりの呑み込みの状態や好み等を職員が把握している。季節毎の献立を定期的に保健センター栄養士に、確認してもらいアドバイスしてもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、各居室洗面台にて口腔ケアを実施している。その人の状況に合わせた介助や見守りを行っている。夜間帯は義歯を外してもらい、洗浄している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの習慣や排泄間隔のパターンを把握し、トイレ誘導する事で、トイレにて排泄できるような支援を行っている。日中はすべての方が布のパンツとパッドで過ごされている。改善活動として排泄班があり、それぞれの課題解決に取り組んでいる。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導しているため、日中は布パンツやパッドで対応できている。夜間はポータブルトイレを使用する等、利用者に応じて対応している。職員がモデルの写真付きマニュアルを利用者別に作成し、トイレ誘導や支援方法に職員差が出ないように徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い食品や乳製品を献立やおやつに取り入れている。飲水量を記録、好みの飲み物を勧めている。トイレでは、身長に合わせた足台を置く事で力みやすい姿勢で排泄してもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 10:00~16:00ではあるが、利用者の希望する曜日や時間に入浴してもらっている。身長に合わせた手作り補助具により、安定した姿勢で入浴出来ている。改善活動として入浴班があり、一人ひとりの入浴マニュアルを作成している。	
			(外部評価) 希望により毎日入ることも可能である。職員がモデルの写真付きマニュアルを利用者別に作成し、介助や入浴方法、入浴時の注意事項を詳細に分かりやすく解説しているため、利用者ほどの職員が入浴を担当しても同じケアを受けることができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。病院で眠剤を頂いている方も、服薬なしで眠れるようになった方が多くなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) それぞれの薬を理解、把握しており、名前、日付け等の区分を1つ1つ記入し、誤薬のないよう確認し、利用者に1回分ずつ手渡しし見守りや介助を行っている。受診時には、職員が同行し症状の変化等を詳しく医師に報告、相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 台所仕事、洗濯畳み、掃除等張り切ってやっておられる。無理のないように見守っている。「これをするのは、私しかない。」と、誇らしく話されている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所の公園に散歩に出掛けたり、個別に買い物に出掛けている。ホーム行事で利用者の希望する場所に外出したり、地方祭や盆踊り等、季節毎の地区の行事に地元ボランティアの協力を得て参加している。身体状況に合わせた、外出支援をおこなっている。	
			(外部評価) 近くのショッピングセンターに買い物に行ったり、公園等散歩に行く等、日常的に外出できるように支援している。また、道の駅にドライブに行ったり、いちご狩り等の行事も企画している。利用者の希望や家族の意向等を確認しながらお正月に帰省したり、孫の結婚式に参加したりすることも支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出した際には、自分の好きな物を買われている。預かり金については、金銭出納帳を記入し、ご家族に相談、報告しながら使用し、毎月収支報告書と明細を送付している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は、自由にかけてもらっており、職員が番号をおしたり、取り次ぎを行っている。ご本人が絵葉書や年賀状を出す支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居間は全員が囲める食卓やくつろげるソファがあり、利用者は好みの場所で過ごす事ができる。台所からも居間を見渡す事ができ、料理の音や匂いから家の生活を感じ取れる。四季おりおりの花を飾り、メダカや金魚を飼っている。壁面の飾りを手作りし季節感をだしている。</p> <p>(外部評価) 季節を感じさせる飾りや花等が飾り付けられたり、行事の案内等が掲示されていたりとホーム内の雰囲気が明るい。利用者の製作した作品が車いす利用者にも見やすい位置に展示される等配慮されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者同士で、ソファに座りくつろげる工夫をしている。ご本人の居室と居間を自由に行き来できる。共同生活の中でストレスを感じている利用者には、個別に関わり思いを聞いている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 使い慣れた家具や生活用品、装飾品等ご本人が持参された物が置かれており、安心して、その人らしい生活が送れている。ご本人の状況や希望に合わせて、畳を敷いている居室もある。</p> <p>(外部評価) 今まで使用していた仏壇やたんすを自由に持ち込み、利用者の使いやすいように配置されている。テレビも持ち込み可能で居室で楽しむこともできる。壁に画鋸を刺して絵等の飾り付けも可能で、利用者の思いに合った居室で居心地よく過ごせるようになっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 椅子やテーブルは個人の体格に合わせた高さの物を使用している。浴室やトイレで補助具を使う事で、自分の力を生かせる工夫をしている。居室やトイレ浴室に大きく名札を掲げ、混乱や間違いの無いようにしている。</p>	